行動する
青年部・女性部

6000人分の食事を準備
被災地支援に奔走

岩手県一戸町商工会女性部

一戸町は岩手県内陸北部に位置し、北上山地と奥羽山脈に囲まれた風光明媚な高原の町です。冬はやや寒いですが、夏は涼しく過ごしやすい地域でもあります。人口は1万4000人弱。商工会会員数は310人、女性部は96人で活動しています。

避難所を訪問して、1カ月間で6000食を提供

平成23年3月11日、ただごとではない大きく長い揺れが東日本を襲いました。私たちの町でも、電気、水、ガソリン、通信手段、すべてストップ。状況が飲みこめないまま揺れから数時間後、ようやく車載テレビから見た映像はあまりにも凄惨なものでした。

日が経つにつれ、被害の大きさが明らかになっていきました。テレビ中継では、避難所でパンと牛乳だけで過ごす人たちの姿が流れ、矢も盾もたまらず、みんなで何とかして温かいご飯を届けたいとの気持ちでいっぱいになりました。

そして、4月2、3の両日をかけて、大槌町に向かうこととなりました。出発前夜、女性部が中心となって、夜遅くまでかけて1000人分の豚汁などを準備。プロパンガス、米、日用品、水、食器などの支援物資のほか、自分たちが使う簡易トイレも積み込んで、商工会女性部、商工会役職員、民間会社、行政を巻き込んで、総勢60人で早朝4時に一戸町を出発しました。

釜石市を経て大槌町に近づくにつれて、目に入ってくる光景はあまりにも悲惨で声が出ませんでした。現地に着くと、昼どきに間に合うように、すぐに1000人分の豚汁とごはんの準備にとりかかり、町内2ヵ所の避難所に届けることができました。避難所の方々は本当に疲れ切った様子でしたが、温かい豚汁とごはんを嬉しそうに受け取ってもらえて、こちらも少しだけ安堵しました。しかし、その嬉しそうな表情の向こう側に、辛さや苦しさも見え、「本当にありがたい、野菜の入った汁が嬉しかった。あったかいごはんが嬉しかった」と感謝の言葉をいただいたときには、こみ上げるものがありました。

帰りの車中で誰からともなく、「せめて県内商工会地区の被災地には全部行って、少しでも温かいご飯を食べてもらいたい」という声があがり、陸前高田、山田、そして野田村と1ヵ月の間に延べ6回、被災地支援に出かけました。そのたびに1000人分の食事

大鍋を使って1000人分の食事を作った

寒さの残る被災地で、温かい食事が喜ばれた

を準備、相当な量がありましたので、避難所を2ヵ所から5ヵ所ほど回ることができました。

1000人分の食材の調達や下ごしらえは正直大変でした。夜遅くまで十数人の部員で準備して、朝3時に出発することもありました。また、支援に向かうに当たって、市町村への連絡、配車、行政との調整なども必要で、被災先の行政機能が整っていない中で難しい部分もありました。しかし、とにかくやらなければならない、助け合わなければならないという気持ちは、みな同じでした。被災地の人たちが一日も早く復興できるように、今後も支援活動をしていきたいと思っています。

夏の名物行事、女性部主催のビアガーデン

私たち一戸町商工会女性部は、とにかく活動回数が多い女性部です。女性部員が少なくなり、若年部員の不足にも悩まされている状況ですが、みな商工会員として地域に必要な団体であり続けたいと活発に活動を展開しています。6月は「商工会の日花いっぱい運動パレード」と産業祭り、7月はビアガーデン、8月はちょうちん祭り、縄文の里ナニャトヤラ踊り、いちのへ流し踊り、9月は招福市、10月は産業祭り、そして2月はカラオケ大会と、毎月のように活動を展開しています。

一戸町の夏の名物行事として定着したビアガーデン

産業祭りや招福市では、焼き鳥やおでん、地元の豚肉を使った1000人分の豚汁を提供、8月は地元伝統のナニャトヤラ踊り大会を開催し、子供から大人まで300人以上の輪踊りが繰り広げられます。今年12回目を迎える女性部ビアガーデンは、一戸町の夏の名物行事としてすっかり定着。生ビールを飲みながら、地域の人、事業者、従業員たち500人近くが酒を酌み交わし、交流の場をつくっています。総勢20人の女性部員が1週間以上前から料理の準備をし、当日は青年部員が会場設営を手伝い、協力してイベントをつくり上げています。

参加部員は「本当は準備が大変。でも、普段町外にお勤めで話す機会が少ない人とも交流でき、来年もまた来ると言われて本当にうれしい」「商売との両立が本当に大変だけど、頑張って続けたい」と、部員はみな地域のために前向きに取り組んでいます。2月のカラオケ大会は、地域住民ののど自慢大会の場となっていて、老若男女それぞれが十八番の一曲を披露する賑やかな行事として親しまれています。

人と人とのつながりを大切に

私たち女性部員は、日ごろから「商工会女性部は地域とともにある」と考えて活動しています。ビアガーデンやナニャトヤラ踊り大会、産業祭りなど、どの事業も人と人とのつながりを大事にしたいとの思いから実施してきました。東日本大震災での被災地支援についても、部員たちを現地へ駆り立てたのは、そうした気持ちからでした。そして、被災地での支援活動を通じて、その気持ちはますます強くなったのです。

黒澤眞理子部長は「一戸町商工会女性部は人のつながりを大切に、ねじり鉢巻きで頑張っていきたいと思う」といつも部員に話しています。これからも、地域とのつながりを大切にしながら、地域に貢献する商工会女性部でありたいと思います。